第 12 回教育委員会会議

令和８年９月 25 日
午 後 ３ 時 30 分
本庁舎屋上会議室

案　件

議案第69号　　大阪市立図書館DX戦略の策定について

議案第 69 号

大阪市立図書館 DX 戦略について

大阪市立図書館 DX 戦略を次のとおり策定する。

施行日　令和 8 年 10 月 1 日

大阪市立図書館DX戦略（案）

大阪市教育委員会事務局
2026年●月策定

目次

- はじめに
- 市立図書館の現状と図書館DXの必要性
- 大阪市DX戦略とは
- 図書館DX戦略の体系
- 実現したい未来・めざす姿
- 4つのめざす姿と8つの施策方針
  - 「いつでもどこでも市民に寄り添う図書館」
  - 「知の循環が生まれる図書館」
  - 「だれもが取り残されない図書館」
  - 「人と情報、人と人をつなぐ司書がいる図書館」
- 行動姿勢・行動指針-図書館DX戦略の推進に向けて
- スケジュール
- 用語解説
- （参考）市立図書館の情報化施策　これまでのあゆみ

はじめに

- 大阪市では、2023年3月に「Re-Design おおさか ～大阪市DX戦略～」及び「Re-Design おおさか ～大阪市DX戦略アクションプラン～」を策定し、日々進歩するデジタル技術やデータを活用して、市民や事業者のニーズを正しくとらえ、行政サービスそのものやその提供スタイルを進化させ、リアルの大阪市の魅力を活かしつつデジタルの力を融合させることで、ウェルビーイングを実感できる都市へと成長・発展させていく「大阪市DX」に取り組んでいます。

- 市立図書館においても、将来にわたって、すべての市民が読書に親しめるよう、昨今のICT・デジタル技術を活かして、市民への図書館サービスを充実させていくため、2040年頃までに実現したい未来の姿を見据え、DXの取組の方針として「大阪市立図書館DX戦略」を取りまとめました。

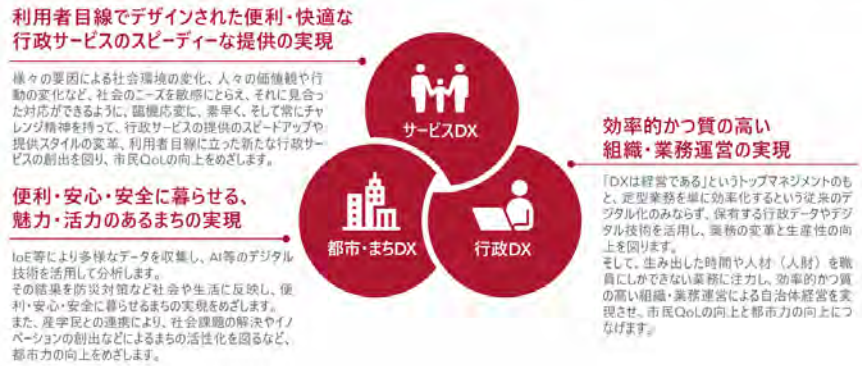
市立図書館の現状と図書館DXの必要性

市立図書館は、中央図書館、23館の地域図書館、自動車文庫を情報・物流のネットワークで結び、「いつでも、どこでも、だれもが課題解決に必要な情報にアクセス可能な“知識創造型図書館”」を基盤とし、400万冊以上の蔵書に加え、商用データベース、電子書籍、音楽配信サービスなどの電子図書館機能も活用し、スケールメリットを生かした効果的・効率的なサービス提供に取り組んでいます。

図書館は紙の本を読むだけではなく、様々な資料・情報・人に出合う“地域の知の拠点”としての役割が期待されています。本市におきましても、すべての市民が図書館を活用できる環境を整備するため、これまでの図書館情報ネットワークシステム運用で見えてきた課題を踏まえ、急速に進展する最新技術も活用した取組、すなわち図書館DXを進める必要があります。

- 多種多様な資料・情報との出会いの機会の充実
- 市民が必要とする図書館という「場」の再構築
- 多様な市民が利用できる環境整備（読書バリアフリーの推進）
- 地域資料の収集・保存・発信（デジタルアーカイブの充実）
- 2040年問題への対応（労働力不足を見込んだセルフ化）

大阪市DX戦略とは



「大阪市DX戦略」は、[MISSION（大阪市の使命）]を「大阪市で生活、経済活動を行う多様な人々がそれぞれの幸せ(Well-being）を実感できる都市へと成長・発展させること」と位置づけ、**サービスDX、都市・まちDX、行政DX**の3つの[VISION（戦略の視点）]を示し、DXを推進しています。

そしておおよそ2040年ごろまでに実現したい未来の大阪市の姿を[VALUE（実現したい未来・めざす姿）]として示し、このVALUEの実現に向けて2030年までに取り組む施策方針を[STRATEGY（施策方針）] として示しています。

市立図書館においても市民の地域情報基盤としての役割を果たすため、「大阪市DX戦略」のVISIONに沿ってVALUE を示し、STRATEGYを定めます。

図書館DX戦略の体系

図書館DX戦略は、図書館法や大阪市教育振興基本計画、図書館の目標等の方針に基づきながら、大阪市DX戦略の枠組みに沿って、2040年頃までに実現したい未来・めざす姿を示し、2030年頃までの施策方針と、そのための行動姿勢・行動指針を定めます。

図書館

・大阪市立図書館の目標
・大阪市立図書館資料収集方針
・第5次大阪市子ども読書活動推進計画
・地域図書館の建替整備について基本的な考え方
・大阪市読書バリアフリー計画（仮称）R9策定予定　等

教育委員会事務局

・大阪市教育振興基本計画
・第5次生涯学習大阪計画　等

国

・図書館法
・図書館が拓く未来の学びと地域社会（報告書）　等

MISSION

図書館DXの使命

大阪市DX戦略の果たすべき使命に基づきます

VISION

図書館DX戦略の視点

大阪市DX戦略の3つの視点を踏襲します

図書館DX戦略として推進する部分

VALUE

実現したい未来・めざす姿

図書館DXに取り組み、おおよそ2040年頃までに実現したい未来の姿を示しています。

STRATEGY

施策方針

実現したい未来・めざす姿の実現に向けたおおよそ2030年頃までの施策方針を示しています。

CREDO

行動姿勢・行動指針

図書館DXを進めるうえで職員がとるべき行動や姿勢、持つべき共通の価値観を示しています。

実現したい未来・めざす姿

大阪市のDX戦略の視点（VISION）と同様に、

サービスDX　**都市・まちDX**　**行政DX**　の視点から、

４つの **実現したい未来・めざす姿** を示します。

サービスDXの視点では…

実現したい未来・めざす姿

「いつでもどこでも 市民に寄り添う図書館」

必要な手続きがオンラインでできる。リアルの図書館へ行かなくても本が借りられる。24時間いつでも図書館から情報を得られる。図書館はより市民に寄り添った場に生まれ変わる。

都市・まちDXの視点では…

実現したい未来・めざす姿

「知の循環が生まれる図書館」

知りたいことは図書館にある、図書館で発掘できる。
地域の情報基盤として、資料・情報から
新しい「知」が生まれ、発信される。
それらを受け取る人や活用する人が集まり、
次へと循環し、“大阪市民の知”がつながる。

実現したい未来・めざす姿

「だれもが取り残されない図書館」

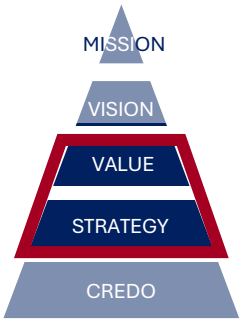
市民に寄り添ったUI/UXでの情報提供等により、
だれもが必要な情報にたどり着ける。
図書館に行かなくても本が借りられる。

行政DXの視点では…

実現したい未来・めざす姿

「人と情報、人と人をつなぐ 司書がいる図書館」

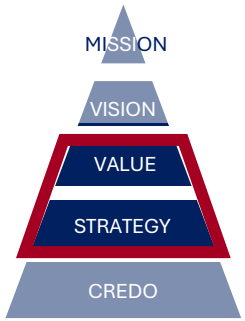
定型業務は自動化され、業務効率化が徹底される。人と情報をつなぐ、人と人をつなぐ等、司書だからこそのスキルと専門性が活かされ、市民のウェルビーイング向上につながっている。



4つのめざす姿と8つの施策方針

2040年頃までに 4つの**実現したい未来・めざす姿** を実現するため、
2030年頃までに取り組む施策方針として8点を示します。

大阪市DX戦略の視点	図書館が2040年頃までにめざす姿	図書館が2030年頃までに取り組む施策方針
サービスDX	いつでもどこでも市民に寄り添う図書館	【施策方針1】来館・非来館を問わない“デジタル手続き完結型”の利用体験へ移行する 【施策方針2】デジタル技術で“探す・調べる・図書館を使う”をより便利にする
都市・まちDX	知の循環が生まれる図書館	【施策方針3】“出合い”の体験から学び・活動へと循環する“地域の知の基盤”として再設計する 【施策方針4】地域に残る資料を“集める・残す・使える・つなげる”基盤として整備する
	だれもが取り残されない図書館	【施策方針5】多言語・やさしい表現・アクセシビリティに対応した情報提供を標準化する 【施策方針6】読むことが難しい人・来館が難しい人を支えるサービスを拡充する
行政DX	人と情報、人と人をつなぐ司書がいる図書館	【施策方針7】業務の効率化及び定型業務の自動化を行い、司書は“つなぐ業務”へシフトする 【施策方針8】デジタル技術と生成AI活用を業務に組み込み、“司書の支援力”を拡張する



「いつでもどこでも市民に寄り添う図書館」

2040年頃までにめざす具体的な姿は…

必要な手続きがオンラインでできる。リアルの図書館へ行かなくても本が借りられる。24時間いつでも図書館から情報を得られる。図書館はより市民に寄り添った場に生まれ変わる。

既にやっていること・継続すること

行政オンラインシステムを活用し一部申請のオンライン化、図書館アプリ・スマートフォンでの図書館カード提示

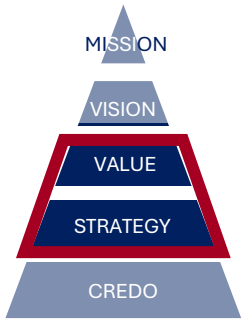
図書館ホームページによる蔵書検索・予約手続き、電子書籍閲覧等、SNS等による情報発信・情報提供

【施策方針1】来館・非来館を問わない“デジタル手続き完結型”の利用体験へ移行する

- 図書館カード登録／更新、各種申請・届出、予約・延長等の手続きをオンライン中心に再設計する。
- 図書館の開館時間に関わらずに予約資料を受け取ることができる「予約資料受取ロッカー」を設置する。
- 申請書・受付票等の記入を不要（書かない図書館）とし、本人確認・入力補助・内部処理をデジタルで連携して待ち時間と職員負担を削減する。
- 館内利用も含めて“事前に・迷わず・確実に”使える導線を整備する。

【施策方針2】デジタル技術で“探す・調べる・図書館を使う”をより便利にする

- 電子書籍を充実し、時間・場所の制約を受けない図書館利用を拡大するとともに、学校における探究的な学びの支援を強化する。
- チャットボットでの対話型案内を整備し、開館時間外も含めて基本的な問い合わせ・利用支援を提供する。
- 生成AI等を活用し、利用案内の最適化やレファレンスの初期段階での支援により、市民に寄り添う基盤を整備する。



「知の循環が生まれる図書館」

2040年頃までにめざす具体的な姿は…

知りたいことは図書館にある、図書館で発掘できる。地域の情報基盤として、資料・情報から新しい「知」が生まれ、発信される。それらを受け取る人や活用する人が集まり、次へと循環し、“大阪市民の知”がつながる。

既にやっていること・継続すること

横断検索「OMLIN（おむりん）サーチ」、デジタルアーカイブによる情報発信、オープンデータ提供と活用事例収集

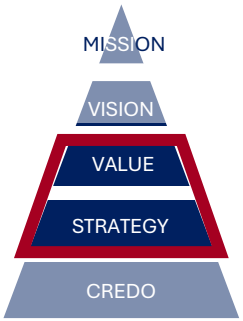
「思い出のこし」の収集・保存・発信、図書館ホームページに「災害・防災関連の取組」を設置

【施策方針3】“出合い”の体験から学び・活動へと循環する“地域の知の基盤”として再設計する

- WebOPACを再構築し、 UIを改善することで、目的資料にたどり着きやすい“迷わない図書館”を実現する。
- 生成AIの活用により、テーマ探索・関連資料の提示など“資料・情報との出合い”を創出し、市民の学びや活動を後押しする。
- 地域の関係機関等と連携し、図書館サービスに資するデータ収集・共有の枠組みを整備する。

【施策方針4】地域に残る資料を“集める・残す・使える・つなげる”基盤として整備する

- デジタルアーカイブの充実を継続し、検索性・操作性の向上、メタデータの整備、UI改善等をすすめることにより、市民・研究者・観光等の多様な利用につなげる。
- デジタル化された行政資料等を計画的に収集・整理し、二次利用も見据えた提供条件を整える。
- 地域に残る資料を収集し、利活用を見据えて整理・デジタル化・公開までを一連で推進する。



「だれもが取り残されない図書館」

2040年頃までにめざす具体的な姿は…

市民に寄り添ったUI/UXでの情報提供等により、だれもが必要な情報にたどり着ける。図書館に行かなくても本が借りられる。

既にやっていること・継続すること

図書館ホームページの英語・中国語・ハングル・やさしいにほんごページの設置

英語・中国語・ハングル・やさしいにほんごのWebOPAC設置、図書館ホームページにアクセシビリティツールを設置

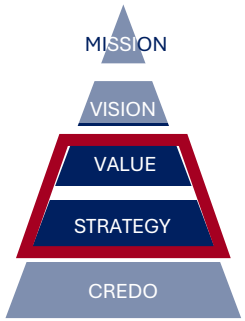
オンラインでの対面朗読サービス

【施策方針5】多言語・やさしい表現・アクセシビリティに対応した情報提供を標準化する

- デジタル技術や生成AI等を活用し、利用者の状況（言語、理解度、障がい等）に応じた「ひとにやさしい」案内・情報提供を整備する。
- やさしい日本語・外国語でも使いやすい蔵書検索（UI改善、検索補助、表記ゆれ対応等）を実現し、情報への到達困難を減らす。

【施策方針6】読むことが難しい人・来館が難しい人を支えるサービスを拡充する

- 非来館型サービス（オンラインでの利用登録・相談等）を広げ、移動や時間の制約による利用格差を縮小する。
- オーディオブックを導入し、視覚に障がいのある方や活字での読書が難しい方、子育て・就労等で時間がとれない層などを含むすべての市民に読書機会を提供する。
- オンラインでの対面朗読やデイジー図書など、資料・ツールの利用支援を強化し、支援が必要な利用者への継続的な読書・学習機会を確保する。



「人と情報、人と人をつなぐ司書がいる図書館」

2040年頃までにめざす具体的な姿は…

定型業務は自動化され、業務効率化が徹底される。人と情報をつなぐ、人と人をつなぐ等、司書だからこそのスキルと専門性が活かされ、市民のウェルビーイング向上につながっている。

既にやっていること・継続すること

図書館ホームページからのパスワード発行、図書館ホームページからの貸出予約

【施策方針7】業務の効率化及び定型業務の自動化を行い、司書は“つなぐ業務”へシフトする

- ICタグ導入や周辺システム連携により、貸出返却・蔵書管理等の省力化を進める。
- 自動貸出機の導入、利用者自身のスマートフォンやタブレットでの貸出等により、“待たない図書館”を実現して窓口混雑を平準化する。
- “書かない図書館” を実装し、業務フローを再設計して、ミス・手戻り・待ち時間を減らす。これらにより生まれた時間を、レファレンス、読書支援、地域連携など“人が担うべき業務”に再配分する。

【施策方針8】デジタル技術と生成AI活用を業務に組み込み、“司書の支援力”を拡張する

- 来館しなくても利用できる電子図書館機能サービスを拡充し、オンラインでの司書の支援を拡げる。
- 生成AI等を活用し、案内・レファレンスの入口支援、資料探索の補助、職員の調査・文章作成等の効率化を進める。
- 専用回線の無線化・モバイル端末の導入により、司書はカウンターから閲覧室へ、市民一人一人に寄り添った対話型の読書支援・レファレンスサービスを行う。

行動姿勢・行動指針-図書館DX戦略の推進に向けて

■ 図書館全体でのDX推進体制

市立図書館では、図書館情報ネットワークシステムの運用状況、課題に関する事項を検討する「図書館情報ネットワークシステム推進会議」、システム更新・再構築に向けた課題整理、担当間調整を行う「次期システム検討プロジェクト会議」を設置しています。利用サービスに関わるそのほかの会議体等とDX推進の課題を共有することでDXの取組の横展開を図ってまいります。また、外部有識者からの意見聴取も行うことで、先進的な取組にも目配りしながら、図書館全体のDX推進に向けた検討を進めていきます。

■ DX人材育成

図書館では、貸出・返却・蔵書検索のシステム化が実装されていますが、さらなるDXを推進していくためには、職員一人一人が図書館の使命を理解し、DXの必然性と意義を理解したうえで、DXをどのように活用していくかを考える必要があります。そのため、市全体のDX人材育成の取組に加えて、図書館情報ネットワークシステムに関連する研修を継続的に実施し、デジタルリテラシーの向上をめざします。

■ DX戦略の推進方法

現行の図書館情報ネットワークシステムは、2025年1月に稼動を開始し、端末機器等も含めて2029年12月末に満了を迎えます。2030年1月稼動予定の新システム稼動時に、「2030年頃までに取り組む施策方針」が達成された状態となるように、「図書館情報ネットワークシステム推進会議」「次期システム検討プロジェクト会議」での検討を行い、他会議体とも情報共有を図りながら進めてまいります。

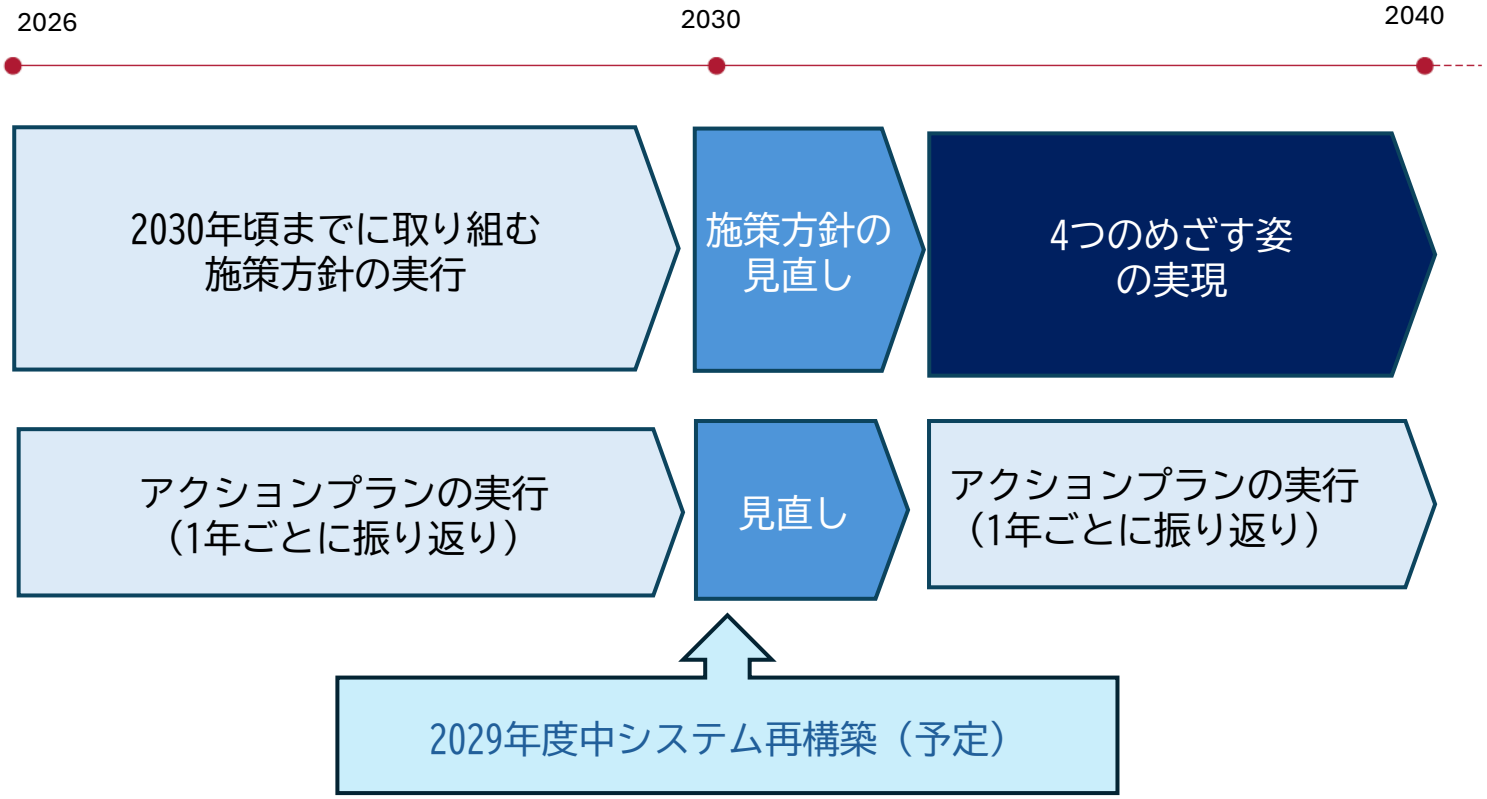
なお、DXの取組にあたっては、多様なニーズに対して明確なビジョンを持ち、「企画→実行→評価→改善」のサイクルを迅速に繰り返す「アジャイル手法」を用いて、柔軟に軌道修正しながら取組を進めてまいります。

■ 図書館DX戦略アクションプランの策定

「図書館DX戦略」に基づく取組計画として「図書館DX戦略アクションプラン」を策定します。「図書館DX戦略アクションプラン」では、具体的な取組を明確化し、到達に向けての指標を設定して、着実に取組を進めていきます

スケジュール

現行図書館情報ネットワークシステムの満了を迎える2029年度のシステム再構築を見据え、2030年までに取り組む8つの施策方針を実行します。次期システム開始から1年程度経過した時期に施策方針の見直しを行い、4つのめざす姿を実現します。



用語解説

- アクセシビリティツール
  音声読み上げ機能や文字の拡大、ルビうち機能等、年齢や障がいの有無にかかわらず、多くの人々が不自由なく情報を得られるようにするツールのこと。
- アジャイル手法
  ソフトウエアやコンピューターシステムの開発手法の一。顧客の要求案件や経営環境の変化に対し、俊敏かつ柔軟に対応することに主眼を置く。
- ウェルビーイング（Well-being）
  身体的・精神的・社会的に良好な状態。特に、社会福祉が充実し、満足できる生活状態にあることをいう。
- 横断検索（統合検索）
  複数のデータベースを参照したり、複数のサーチエンジンを用いたりして、横断的に検索すること。
- オーディオブック
  音声化した書籍。文学作品などを人間、または機械が朗読したものが多い。
- オープンデータ
  インターネットなどを通じて誰でも自由に入手し、利用・再配布できるデータの総称。
- 商用データベース
  企業などが契約条件のもとで、雑誌・新聞記事や判例、企業情報等の検索・記事閲検索等を有料で提供するデータベースの総称。
- 生成AI
  あらかじめ学習したデータをもとに、画像・文章・音楽・デザインなどを新たに作成する人工知能（AI）の総称。
- チャットボット
  人工知能を利用し、人間との対話やメッセージのやりとりを行うコンピュータプログラム。
- デイジー図書
  国際標準規格DAISY（Digital Accessible Information System）に準拠し作成されたデジタル録音図書。図書の内容を音声にした音声デイジーのほか、パソコンやタブレットで文字や画像をハイライトしながら読むことができるマルチメディアデイジーなどがある
- デジタルアーカイブ
  有形・無形の文化財をデジタル情報として記録し，劣化なく永久保存するとともに，ネットワークなどを用いて提供すること。
- 電子図書館機能
  商用データベースやデジタルアーカイブ、電子書籍等、インターネットを経由して得られる情報のこと。
- 読書バリアフリー
  読書、ひいては情報獲得にあたって存在するさまざまなバリアを取り除き、だれもが等しく情報にアクセスできるようにすること。
- メタデータ
  データに関する諸情報を記述した基本データ。データそのものの内容とは別に、そのデータに関連づけて作成された補助的な情報をさす。
- レファレンス
  図書館が行なう利用者サービスの一つで、必要とする文献や参考図書についての問い合わせに応じたり、検索に協力したりするもの。
- ICタグ
  小さな無線ICチップ。商品に貼付し、電波の送受信で商品の識別、管理などに利用される。
- DX（Digital Transformation）
  新たな価値を創造することを目的に、デジタル技術の駆使によって既存の枠組みを変化させること
- WebOPAC
  インターネット上で見られる図書館や資料館などが所蔵する資料の諸情報を電子化し、利用者がコンピューターで検索できるようにしたもの。
- UI（user interface）
  人間がコンピューターなどの機器を操作する際に触れる環境、機器の使い勝手のこと。
- UX（user experience）
  製品・サービスを使用する際の印象や体験。製品を所有したり、サービスに接したりする過程で得られる、満足感や喜びといった質的・精神的価値に重きを置く。ユーザー体験。

（参考）市立図書館の情報化施策これまでのあゆみ

1994年度
「大阪市情報化計画」

「図書館情報ネットワークシステム」位置づけ

1996年 7月　**図書館情報ネットワークシステム本稼動**

全館オンライン化、共通貸出・共通返却

2001年 5月　図書館情報ネットワークシステム再構築

ホームページ開設　・蔵書検索（24時間）

古地図・古文書画像情報のホームページ公開

利用者用検索端末からの図書貸出の予約

インターネットによる図書貸出の予約サービス

2003年　7月　ハングル・中国語蔵書検索（各国語HPより）

2004年　8月　インターネットによる事業申込受付

2007年　1月　図書館情報ネットワークシステム機種更新

2006年度
「大阪市情報化基本方針」

市立図書館の利便性
向上と機能充実

2007年　4月　**商用データベース提供拡大**

2008年　3月　メールによるレファレンス受付

2012年　1月　電子書籍サービスの提供開始

2012年　2月　国立国会図書館歴史的音源の提供開始

（参考）市立図書館の情報化施策これまでのあゆみ

2014年 1月　図書館情報ネットワークシステム再構築
個人情報のオンライン化
横断検索・統合検索の開始
デジタルアーカイブ再構築
2017年 3月　**公衆無線LAN環境整備**全館完了
2017年 3月　**デジタルアーカイブのオープンデータ提供**開始
2017年 6月　**「『大阪市ICT戦略』に沿った図書館の今後のあり方」策定**
「同アクションプラン」策定
2020年 1月　図書館情報ネットワークシステム機種更新
デジタルアーカイブバージョンアップ
Webサービスの操作性向上
2025年 1月　図書館情報ネットワークシステム再構築
オンプレミスからクラウド化へ
マイナンバーカードでの貸出、図書館アプリの導入

図書館情報化施策の
今後のあり方検討

2016年3月
「大阪市ICT戦略」

2023年3月
「Re-Design おおさか」